

## 胃切除術を受けた患者への食事指導の検討

### 1 病棟 5 階西

○池田清郁、下川千鶴、波田栄子、石川知子、宇多川文子、縄田敏子

#### I. はじめに

近年、当科では胃切除術後の食事の開始時期が従来より早くなり入院期間が短くなってきている。短期間の入院の中で患者が食事指導の内容を十分に理解し、退院後も自己管理できるように指導していくことが重要である。「胃切除術後患者の20～60%の者が、退院後長期にわたり何らかの身体的症状に悩んでいる」といわれている。症状の出現原因は食事摂取方法に関するものが多く食事指導の必要性が高い。現在の食事指導の方法は、受持ち看護師を中心に、手術前は食事の摂取方法について簡単に説明するのみで具体的な食事摂取方法や小胃症状の対処の方法、食品の選択等の説明は手術後にパンフレットを使用して行っている。

実際に、術後食事摂取が始まった患者の中には、「こんなに食べれなくなるとは思わなかった」「そんなにゆっくり食べれない」という訴えも聞かれ、入院生活が短くなっている中で患者が十分理解でき受容するためには、手術前から具体的な指導が必要であると考えた。そこで、効果的な食事指導を行うために、食事指導に関する看護師の意識調査と退院後の患者の食生活の意識調査および現状調査を行い、食事指導の内容と時期を検討したので報告する。

#### II. 研究方法

- ① 対象 : 1 外科看護師 18 名  
期間 : 平成14年3月9日から3月20日まで  
方法 : 自作の質問紙留置調査によるアンケート調査
- ② 対象 : 平成13年1月から平成14年6月までに1外科で胃切除術（部分切除、全摘）を受け下記の期間に当科に受診され、事前に承諾を得た患者12名  
期間 : 平成14年6月12日から7月31日まで  
方法 : 自作の質問紙を作成し、外来受診日に聞き取り調査

#### III. 結果

##### ① 看護師アンケート結果

食事指導を手術前のすべての患者にしていると回答した者は5名、患者に応じてしている者が8名、していない者が1名であった。術前指導の内容として適切な項目は複数回答で、食事の摂取方法が14名、食後の安静の必要性が7名、食後起こりやすい症状への対応が7名、食品の選択が5名であった。（図1）食事指導の適切な時期は、手術前が5名、手術後4日目から5日目が2名、飲水開始時が1名、食事開始前日が6名であった。（図2）食事指導後、ほとんどの患者が理解され実行できていると思うと回答した者が10名、少しの患

者ができていると思う者が4名であった。食事指導が実行されにくい項目にあげられたのは食事の摂取方法が12名、食後の安静が4名、食後におこりやすい症状への対応が1名、食品の選択が1名であった。患者が食事摂取を順調に実行できない原因と考えられることは自己判断するが8名、手術前の食習慣の違いが8名、年齢・理解度の違いが2名、家族のサポートの違いが1名、食事の配膳方法が1名であった。

## ② 患者アンケート結果

食事指導やパンフレットの内容は理解できたと回答した者は12名全員であった。手術前にもパンフレットを使用して食事指導を受けたいと回答した者が6名、受けたくない者が1名、どちらでもよい者が5名であった。術前指導の内容として希望する項目は複数回答で、食事の摂取方法が6名、食後の安静の必要性が5名、食後に起こりやすい症状への対応が2名、食品の選択が2名であった。(図3)患者が希望する食事指導の適切な時期は複数回答で、手術前が4名、食事開始前日が5名、食事開始時4名、手術後10日目が2名、退院日決定後が6名であった。(図4)現在、食事のことで困ったり不自由を感じていると回答した者が4名であった。その内容としては好きなものが食べられないが3名、外食をしにくいのが4名、分割摂取がなかなか守られないが1名、味覚がもどらないが1名、イレウスにならないように食事に気をつけているが1名、何を食べたらよいか困るが1名であった。手術前の食事回数は3回が12名で、術後退院時の食事回数は3回が2名、5回から6回が10名で、現在の食事回数は、3回が9名、5回から6回が3名であった。手術前の食事の所要時間は15分未満が7名、20分が1名、30分が1名、術後退院時は15分未満が2名、20分が3名、30分が7名、現在は15分未満が2名、20分が3名、30分が5名であり、約半数以上は時間をかけてゆっくり食べていた。食事の内容は手術前後で変わらないと回答した者が3名、変わったと回答した者が8名であった。変わったと回答した患者は消化のよい、やわらかい食品を選択するように心がけていた。食後の安静時間は変わらないと回答した者が1名、変わったと回答した者が9名であった。手術前の安静時間は0分が8名、30分が1名、術後退院時は15分未満が1名、30分が7名、60分以上が2名で、現在は0分が3名、30分が7名、60分以上が2名であり、ほとんどの患者が手術後、食後の安静に努めていることがわかった。手術前よく噛んで食べていたと回答した者が3名、噛んでいない者が5名、考えたことがない者が4名であった。手術後よく噛んで食べている者が11名、考えたことがない者が1名であり、ほとんどの患者がよく噛んで食べることを理解し実施できている。食後何らかの症状があったと回答した者は8名で、つかえ感が2名、痛みが2名、嘔気が4名、下痢が2名、便秘が4名であった。

## IV. 考察

今回の調査より、パンフレットを使用した食事指導の内容はほとんどの患者が理解できていると答えているが、看護師アンケート結果より手術前の食習慣の違いや年齢、理解度により受容や実行の程度は患者により異なると考えられる。よく噛んで食べることは、手術後ほとんどの患者が必要性を理解し実行できていた。食事の所要時間は手術前は15分未満の患者がほとんどで、手術後半数以上は時間をかけてゆっくり食べるように努力していると答え

ている。しかし、2名は手術後も早く食べてしまうと答えており、指導する際には手術前からの家庭での食習慣も考慮する必要がある。

約半数の患者が予備知識があった方が術後の指導内容も理解しやすいため術前からの食事指導を希望しており、看護師もパンフレットを使用して食事の摂取方法などについて術前から指導していた方が良いという意見が約半数であった。このことから、術前からパンフレットを使用し食事指導をおこなう方が、患者の予備知識もでき術後の食事指導の受入れもよいのではないかと考える。患者アンケートより術前に受けたいと希望される指導の内容は、食事の摂取方法、食後の安静の必要性が約半数であるが、食後に起こりやすい症状、食品の選択も少数あったことより、指導内容を患者に応じて考慮する必要があると考える。

看護師はパンフレットを使用した食事指導の適切な時期を、食事開始前日、手術前、術後4日～5日目、飲水開始時の順に回答しており、患者は退院日決定後、食事開始前日、手術前、食事開始時、手術後10日目の順に回答していた。看護師も患者も繰り返し指導をする必要性を感じており、手術前から退院日決定後までの期間の適切な時期にパンフレットを使用し、食事指導をすることが重要であると考え。約半数以上の患者が、術後吻合部の浮腫などにより症状がおこりやすいと言われている10日～14日目に消化器症状をおこしていることから対処療法についても繰り返し指導する必要があると考える。

今後はクリニカルパスにそって術後の経過を説明し、手術前、食事開始前、食事開始時、術後10日目、退院日決定後に、患者の意思、性格、年齢、理解度等を考慮しながら個別性を取り入れたパンフレットを使用して繰り返し食事指導を行う必要がある。また、退院決定後は可能であれば家族を含めた食事指導を行い協力を得ることが必要である。

## V. まとめ

胃切除術を受けた患者の食事指導に関する看護師の意識調査と退院後の患者の食生活の意識調査および現状調査を行い、以下のことが明らかになった。

1. 約半数の患者が術前からの食事指導を希望していた  
看護師も約半数が術前からパンフレットを使用し食事の摂取方法など具体的に指導していた方が良いと考えている
2. 半数以上の患者が食後何らかの消化器症状が起こっている所以对処療法についても十分に指導する必要がある
3. 今後はクリニカルパスにそって術後の経過を説明し、患者の意思、性格、年齢、理解度を考慮し、パンフレットに個別性を組み込み、手術前、食事開始前、食事開始時、食事開始後10日目、退院決定後に繰り返し食事指導を行う必要がある

## 引用文献

- 1) 青木好美：胃術後患者の後遺症と関連因子・対処法についての検討，第26回成人看護 I，13～16，1995.

## 参考文献

- 1) 木村清子：胃切除患者の食事開始に伴う愁訴の出現状況と持続期間，第28回成人看護

- 護) I, 75~77, 1997.
- 2) 伊藤博美: 胃切除患者のボディイメージの変化, 第25回日本看護学会集録 (成人看護 I), 71~73, 1994.
  - 3) 丸山圭一: 胃癌術後の一般的チェックと治療, 臨床外科 第55巻 第12号, 1369~1372, 2000.
  - 4) 柏木秀幸: 胃切除症候群, 臨床栄養 Vol. 97 No. 4, 374~383, 2000.

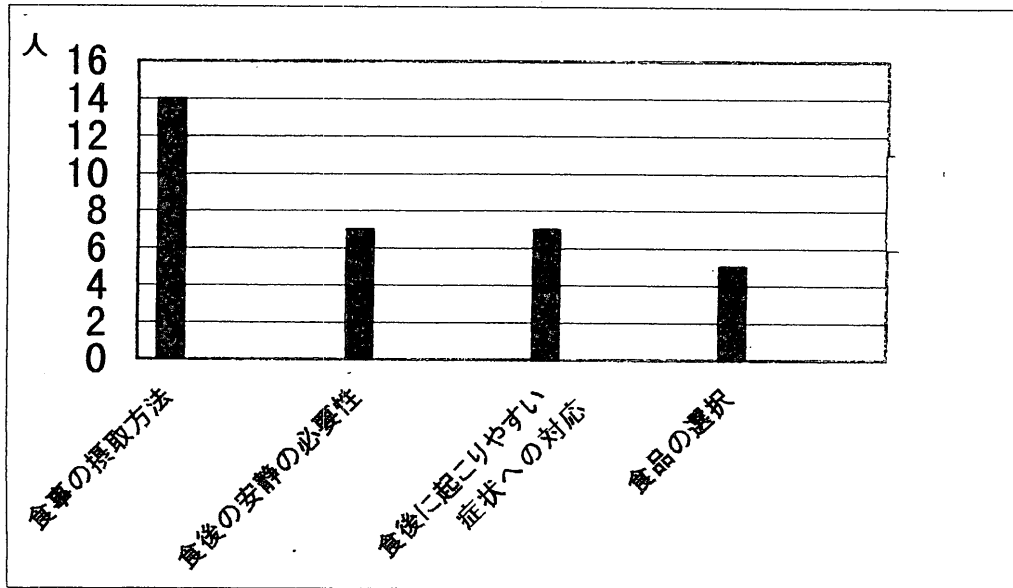


図1 看護師が術前指導に適切と思う項目

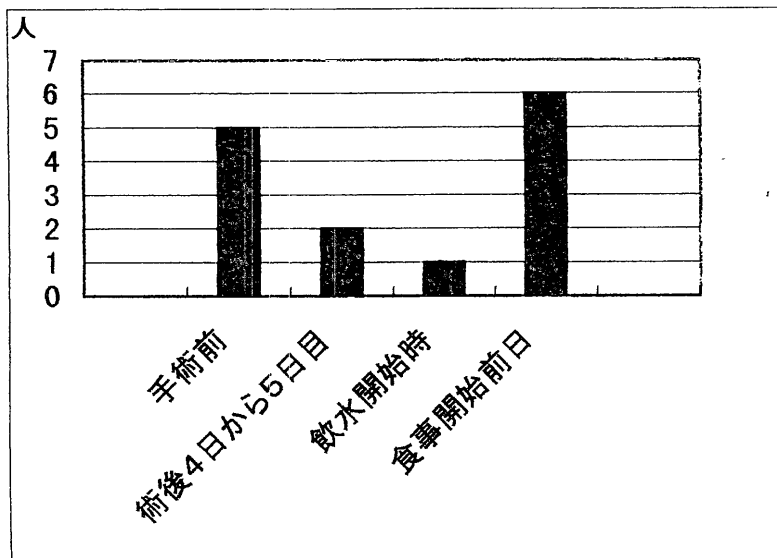


図2 看護師が適切と思う食事指導の時期

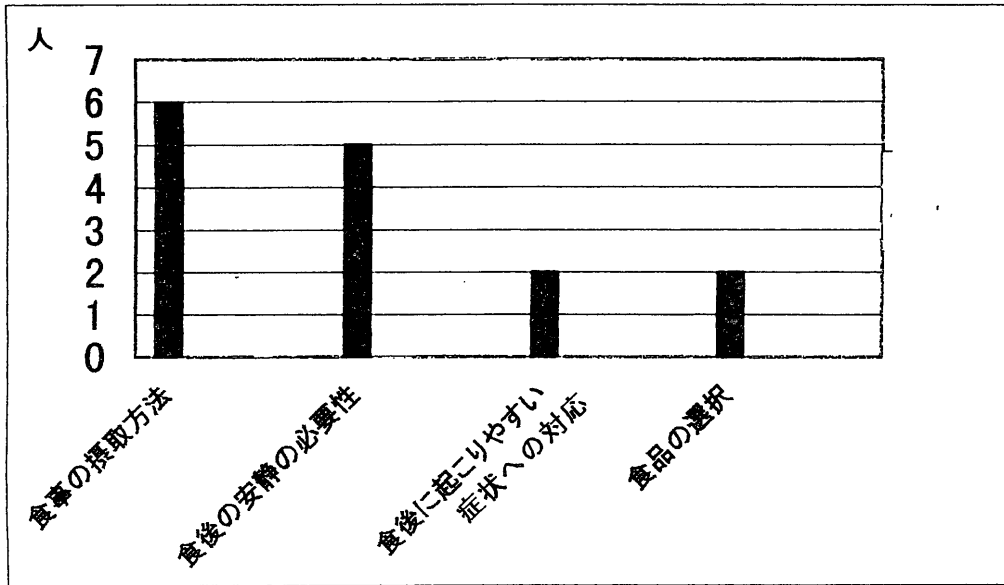


図3 患者が希望する術前指導の項目

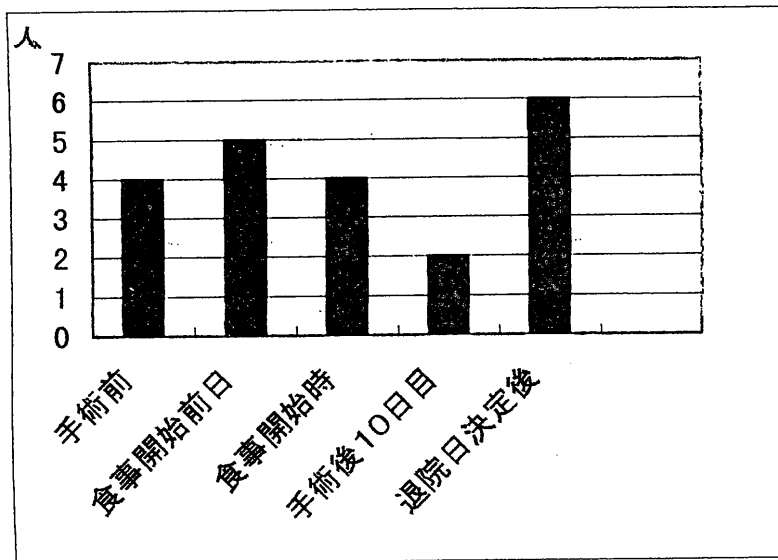


図4 患者が希望する食事指導の適切な時期